

出穂期に入ります。高温時の水管理を徹底しましょう。 大豆の中耕・除草剤散布は開花前までに!!

県内の水稲生育状況は、平年よりやや早く経過しておりましたが、7月中旬からの低温に伴う影響が心配されております。

県内では、田植えが早い水田で7月下旬の出穂、これから天候が良ければ一斉に出穂期に入りますので水管理は早めに徹底しましょう。

また、大豆圃場についても降雨により除草剤散布等が遅れており、一部湿害なども見受けられますが、開花期に入る前に中耕作業が完了できるようにしましょう。

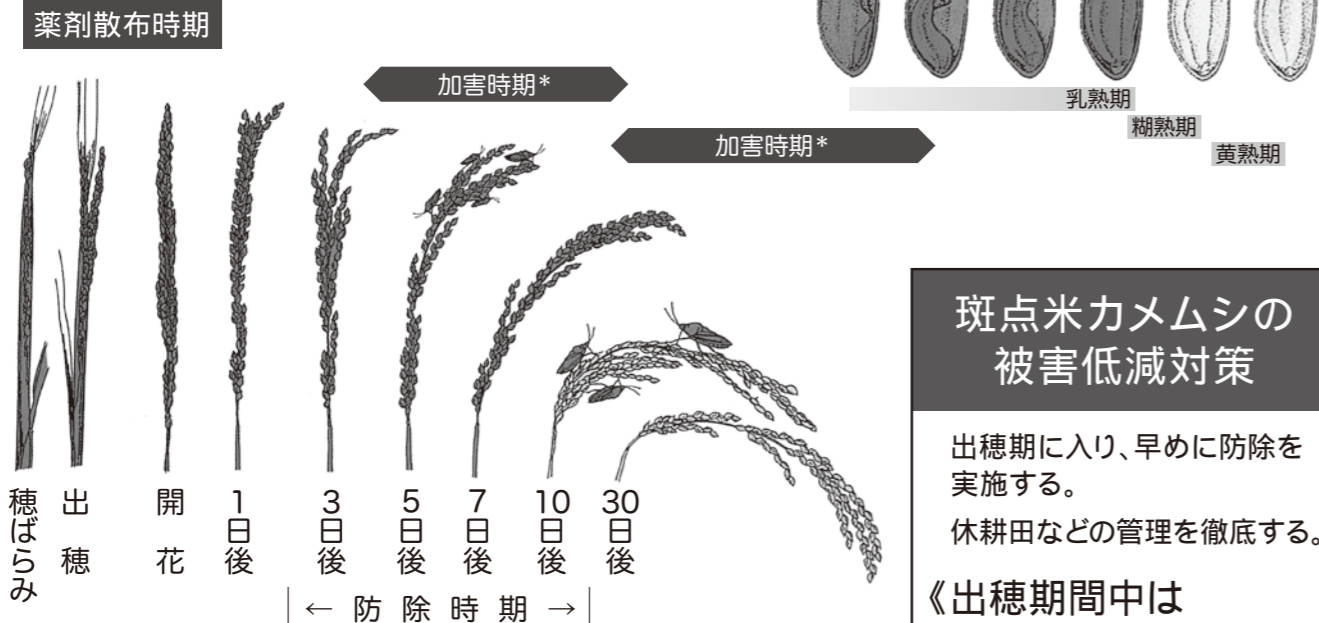
◎東北地方1か月予報(仙台管区気象台 7月21日発表 8月中旬までの予報)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確立(%)>

【気温】東北太平洋側	40	40	20
【降水量】東北太平洋側	20	40	40
【日照時間】東北太平洋側	50	30	20

凡例：■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

斑点米カメムシ類の防除時期(目安)



斑点米カメムシの被害低減対策

出穂期に入り、早めに防除を実施する。
休耕田などの管理を徹底する。

《出穂期間中は草刈作業厳禁》

薬剤による防除は、穂揃期とその7~10日後に畦畔を含めて2回実施する。

登熟期間の高温対策と水管理について

登熟期間中の高温多照により、米の品質が低下しやすくなります。出穂後の高温・乾燥や日照不足にあつと白未熟粒(乳白粒・腹白粒・背白粒等)が発生します。出穂後、異常気象で経過する可能性がある場合は、被害軽減させるため特に適正な水管理を行いましょう。

高温による白未熟粒(乳白米)の発生条件とは(H27年産米は多発しました。)

登熟初中期(出穂後の約20日間)の平均気温が27℃を超えると白未熟粒率が20%以上になるという試験結果も出ております。(参考資料より記載)

出穂時期	温度条件(昼温/夜温)	症状
出穂後 4~12日	(昼温30 / 夜温25)	死米が多く発生する
出穂後 4~20日		乳白粒が多く発生する
出穂後16~24日		背白粒が多く発生する

乳白米の発生は、昼・夜高温のいずれでも発生しますが、登熟については夜の高温の方が影響が大きいといわれています。

高温による白未熟粒(乳白米)の主な技術対策

高温・乾燥時には、かけ流しやかんがいをし、水を切らさないようにしましょう。

出穂期以降は間断かん水の継続で根の活性を維持しましょう。

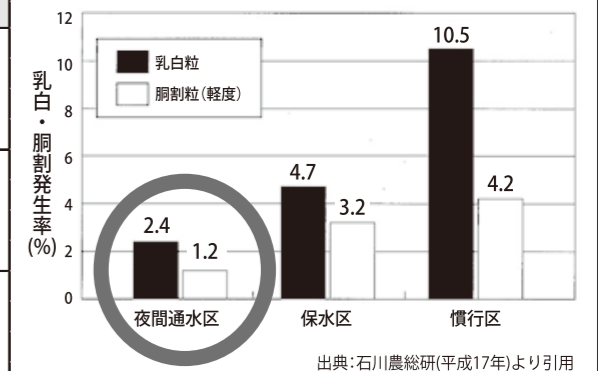
落水時期は、出穂後「30日」を目安にして下さい。

- かけ流しかんがい.....気温よりも温度が低い用水をかけ流すことで、水田内の水温・地温の上昇をなるべく低く抑え、最も有効な水管理方法です。
- 昼間深水・夜間落水管理...晴天・高温時に昼間は深水・夜間は落水とします。
- 飽和水管理.....水田内の足跡に水が残る程度の水管理です。株元の温度・地温を下げる効果と根に酸素を供給して稲体の活力をなるべく維持するようにします。

高温時の水管理

●出穂直後から高温(夜間の最低気温が25℃以上)が続く天候は、乳白粒と白未熟粒の多発につながるため、水稲圃場の気温を低下させることが必須です。

水管理方法	概要	効果
掛流し灌漑	気温より低い用水の掛流し	大 水の確保が最大の課題(毎分200~300L必要)
昼間深水 夜間落水	晴天時は極力深水にし、夜間は落水	中 水量が少なく済む。効果は掛流しより小さい
保水管理	灌水せず走水等で土壌を湿潤に保つ	小 水利・水量がより少なく、煩雑さが少ない。効果は掛流しより少ない



※地域で水の確保対策を再度検討!

高温時の水管理効果

